

令和4年度美乃浜学園学区（旧平磯中学区）市政懇談会

日時：令和4年6月26日（日）13：30～15：00

場所：平磯コミュニティセンター

【事前質問】	3
1 平磯自治会、美乃浜学区明るい地域づくりの会 県道6号線（平磯～磯崎間）の駐車場整備について	3
（観光振興課回答）	3
2 平磯清水町自治会 防草処置について	3
（道路管理課、市民活動課回答）	3
3 平磯清水町自治会 看板「ごみは各自持ち帰り」の設置について	4
（観光振興課回答）	4
4 平磯清水町自治会 殿山踏切付近の横断歩道新設について	4
（生活安全課回答）	4
5 磯崎自治会 砂塵対策について	4
（農政課回答）	5
6 磯崎自治会 海岸線からホテル白亜紀に繋がる道路の整備について	5
（道路建設課）	5
7 美乃浜学区明るい地域づくりの会 旧平磯小学校校舎の利用について	6
（資産経営課、市民活動課回答）	6
8 美乃浜学区明るい地域づくりの会 古墳群の整備について	6
（教育委員会総務課回答）	6
9 美乃浜学区明るい地域づくりの会 道路のセンターライン他ライン引きの要望について	7
（生活安全課、道路管理課回答）	7
10 美乃浜学区明るい地域づくりの会 旧無線跡地の開発状況について	7
（企画調整課、観光振興課回答）	7
11 美乃浜学区明るい地域づくりの会 農地（田・畑）耕作放棄地の刈り取り対策について	8
（農政課回答）	8
12 美乃浜学区明るい地域づくりの会 出産・子育てのしやすい環境整備について県と連携を	8
（企画調整課回答）	8
13 平磯自治会、平磯清水町自治会、磯崎自治会、美乃浜学区明るい地域づくりの会 緊	

急避難道路の整備について	9
（道路建設課回答）	9
【懇談内容】	10
1 平磯自治会 市役所本庁舎建て替えについて.....	10
（市長回答）	10
（総務部長回答）	10
2 平磯清水町自治会 防草処置について（事前質問 No2 の確認）	11
（市民生活部長回答）	11
3 磯崎自治会 磯崎地区の公園整備について	12
（都市整備部長回答）	12
4 一般参加者 平磯駅踏切の改良について.....	12
（企画部長回答）	12
5 コミュニティ事務局 コミセン移転のプロセスについて	12
（市民生活部長回答）	12
6 コミュニティ会長 市の少子化対策について.....	13
（市長回答）	13
7 平磯清水町自治会 コロナワクチン4回目接種について	15
（福祉部長回答）	15
8 コミュニティ会長 美乃浜学園の状況について.....	17
（教育長回答）	17
9 平磯清水町自治会 緊急通報システム、愛の定期便事業の様式について.....	18
（福祉部長回答）	18

【事前質問】

1 平磯自治会、美乃浜学区明るい地域づくりの会 県道6号線（平磯～磯崎間）の駐車場整備について

県道6号線の道路拡張が進んでおり、開通後は大変便利になると思う。平磯・磯崎間は眺めも良く磯遊びにも最適で、自然の景観にも優れていることから、日帰りの観光ルートとして期待ができる。しかし、大型バスの駐車場がないので整備をしてはどうか。また、立ち寄ってもらう為にも、休憩所・トイレ・土産店などの設置をお願いしたい。

（観光振興課回答）

「県道6号線（平磯～磯崎間）の駐車場整備」に関するご質問について、回答させていただきます。

主要地方道水戸那珂湊線は、本市の観光拠点であるおさかな市場と国営ひたち海浜公園を結ぶ風光明媚な海岸線を走行できる道路であり、現在拡張工事が進められているところです。

拡張工事区間における磯崎・阿字ヶ浦地区の区間については、道路が狭隘で観光バス等の大型車両の相互通行が困難であり、かつ、歩道が無く歩行者の安全も確保されていないことから、早急にこの区間の道路整備を進めていただくよう県へ要望しているところです。市と致しましては、主要地方道水戸那珂湊線拡幅整備事業の進捗状況や大型バス・自家用車等で訪れる観光客の磯遊び需要を踏まえながら、引き続き海岸沿いにおける観光客用駐車場等の整備の必要性について、検討して参りたいと考えております。

2 平磯清水町自治会 防草処置について

①大蔵稻荷神社前坂道ガードレール設置箇所②旧平磯小学校南側道途中ガードレール設置箇所③殿山町2丁目14番地付近の空き地④きよみず集会所南側の斜面

（道路管理課、市民活動課回答）

①、②、③につきましては、今後、計画的に防草処置を実施してまいります。（道路管理課）④につきましては、きよみず集会所は、現在、市が所管する建物であり、平磯清水町自治会に管理をいただいております。自治会員の高齢化等に伴い、今後は管理が困難になるとのお話をいただいております。高齢化の問題は、今後の自治会運営においても、重要な課題であると認識しております。

管理につきましては、引き続き地域でお願いしたいと考えておりますが、危険を伴うような作業につきましては、管理対応策を個別に協議させていただきます。（市民活動課）

3 平磯清水町自治会 看板「ごみは各自持ち帰り」の設置について

平磯漁港南側の砂浜へ降りる階段付近に3枚の標記看板の設置をお願いします。現在、「大ちゃんクジラ」がある一帯は、ペットボトル、空き缶、ビン、紙類が散乱しており、自主回収している状況である。

(観光振興課回答)

「ごみは各自持ち帰り」看板設置に関するご質問について、回答させていただきます。平磯海水浴場につきましては、地域の皆様やボランティアの方々の清掃活動等により、きれいな砂浜を維持されていることに対しまして、改めて感謝申し上げます。ご質問のありました「ごみは各自持ち帰り」看板の設置を要望されている場所につきましては、茨城県の所有地となっております。

市と致しましては、当該看板を設置することにより、ペットボトルや空き缶などのポイ捨て抑止に一定の効果があると考えておりますので、県へ看板の設置を働きかけてまいります。

4 平磯清水町自治会 殿山踏切付近の横断歩道新設について

平磯方面から踏切付近のセブンイレブンひたちなか殿山町店へ買い物に行くのに、行き交う車の合間を見て道路を横断しており、非常に危険だと感じるため、コンビニ脇の丁字路の西側に横断歩道の新設を要望する。

(生活安全課回答)

横断歩道新設について回答いたします。横断歩道の設置については交通規制に該当するため、所管であるひたちなか警察署に現地調査を依頼したところ、当該箇所の道路形状は西側の加工団地から東側の海岸道路にかけて傾斜していることから、加工団地方面から進行すると踏切を通過するまで横断歩道が目視できない形状のため、視認性が悪い状況にあるとのことです。

また、設置要望箇所は、ひたちなか海浜鉄道の踏切に近接し、付近がバス停留所になっていることから、バスの死角となり歩行者の安全性の確保が難しいとのことです。以上のことから、横断歩道の設置場所には適さないと判断し、設置を行わないとの回答がありました。

市としましては、当該箇所は踏切とコンビニが隣接しているため、踏切手前で停車する車両とコンビニに出入りする車両が交差する箇所であることから、車両に対してスピードを落とすような注意喚起の方法について、引き続き関係部署と協議してまいります。

5 磯崎自治会 砂塵対策について

春の大嵐の砂塵対策を講じていただきたい。(道路側に高さ2m～3mのネットなどを

設置してほしい。)

(農政課回答)

砂塵対策につきましては、規格外麦種子を農業者へ無料配布し、畑に播いて頂くことで、畑の表土から舞い上がる土埃発生を抑制する対応を行ってきております。

昨年度は、一昨年と比較し、市内全体で4トン増の88トンの麦種子を農業者へ配布し、面積として40ha増の880haの畑に播いて頂いたところです。

しかしながら、サツマイモ苗の植付け時期などの兼ね合いから、「春先の強風時期前に麦を鋤き込んでしまう」、「事業に御協力を頂けない」などの理由により、土埃が発生している畑が一部あることも認識しております。

現状、市では、「麦種子播種面積の拡大」と「可能な限り鋤き込み時期を遅らせる事」が最善策と考えております。

今後も引き続き、農家回覧と市報による周知、麦種子未播種農地の所有者への個別通知や訪問による協力依頼により、麦種子の播種面積拡大に取り組むとともに、既に協力を頂いている農業者の方に対しては、鋤き込み時期を遅らせて頂けるよう周知・啓発活動を継続して行って参ります。

また、豪雪地帯などでは地吹雪対策として、風が抜ける平野部の道路に雪が積もらないように設置する防雪柵などの施設がありますが、当該地区の砂塵対策として、道路側のネット設置につきましては、道路に砂塵が堆積することはあっても、通行ができないほど埋塞することは稀であり、同様の施設の整備は困難と考えられます。これら施設は道路を保全するためのものでありますので、住宅などに対する砂塵対策として設置することは、難しいものと考えております。

6 磯崎自治会 海岸線からホテル白亜紀に繋がる道路の整備について

この周辺はホテル白亜紀、おなかやま公園、灯台、旧磯小、酒列神社と名所旧跡が多いにも関わらず道路が狭く、歩行者・車両の通行が非常に多いので周辺地域住民の安全を図るためにも早急に道路の整備を要望する。

(道路建設課)

ご要望のホテル周辺の道路整備につきましては、既存の道路幅が狭いことから、地域住民の皆様が安全・安心して暮らせるために、整備を進める必要があると承知しております。今後、どのような道路であれば整備が可能で望ましいかを、地元(協議会)の皆様で交通体系や利便性等を考慮した案をまとめて頂き、市と十分な意見交換を行いながら、実現性のある計画で進めていく必要があると考えております。

7 美乃浜学区明るい地域づくりの会 旧平磯小学校校舎の利用について

平磯コミセンの駐車場は狭く、6 箇所に数台ずつ駐車場を分散して確保しており、使い勝手が悪く、不便である。

また、当コミセンは、避難所に指定されていないことから、コミセンを旧平磯小学校校舎に移転したいと考えており、旧平磯小学校校舎について、有効活用できるようお願いしたい。

(資産経営課、市民活動課回答)

旧平磯小学校の校舎のうち、北側に位置する旧校舎につきましては、築 60 年を経過し、雨漏りなど老朽化が進行している状況からも活用は難しく、平磯コミセンの移転先としては、西側に位置するリース校舎が適していると考えられます。

このリース校舎につきましては、築 10 年程度の比較的新しい建物ではありますが、コミュニティセンターへの用途変更に際しては、建築基準法や消防法に則した改修が必要となります。

各部屋の機能や利用目的によって改修内容が異なりますことから、まずは建物の現状を踏まえ、活用イメージを具体化しながら、移転に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

平磯コミセンの移転にあたりましては、美乃浜学園学区におけるコミュニティ組織やコミセンの今後のあり方につきましても、地域の皆様と議論を深めながら進めてまいりたいと考えております。

8 美乃浜学区明るい地域づくりの会 古墳群の整備について

ひたちなか市の海岸部には 100 基を超える古墳（海岸部に古墳があるのは非常にめずらしい）があると言われていたが、主な古墳以外の発掘調査は手つかずのまま、環境整備が行き届いておらず、歴史的に重要な場所として認識されにくい状況である。古墳は歴史をひも解く上で重要な役割を担っている。地域住民の関心を高めるためにも古墳周辺の環境を整え、太古の歴史に思いを巡らす憩いの場になるよう、ヤブを刈払いするなど整備を要望する。

(教育委員会総務課回答)

ひたちなか市の海岸部には、多くの古墳群が確認されており、それぞれ貴重な遺跡であり、歴史をひも解く上でも重要な役割を担っています。これらの古墳群の中には、市指定史跡である川子塚古墳があり、史跡の環境整備として古墳周辺の除草作業を行っています。

ご提案の主な古墳群以外の環境整備につきましては、現時点では計画はございませんが、環境状況等を勘案の上検討してまいります。

9 美乃浜学区明るい地域づくりの会 道路のセンターライン他ライン引きの要望について

市内の市道・県道のセンターライン、止まれ、道路側道線の文字や線が消えかかっている場所がある。最近では自転車通学通勤が多くなっていて、特に雨の日などは暗く、自転車を運転する側も非常に見にくく、危険なのでライン引き（再着色）を要望する。

平磯～つばさの塔までの側線を非常に明確に。優先順位としては、①つばさの塔までの側線、②美の浜学園までの通学路、③一般の通学路。

（生活安全課、道路管理課回答）

一時停止線等の再着色については、交通規制に該当するため、所管であるひたちなか警察署に依頼したところ、当該要望箇所を含む、摩耗している路面標示については、茨城県警察本部に上申し、適宜、整備に努めてまいりますとの回答がありました。

また、道路の区画線（白線）引き直しについて、市道については道路管理課にて実施してまいります。また、県道については、管理者である常陸大宮土木事務所に適宜実施されるよう依頼してまいります。

10 美乃浜学区明るい地域づくりの会 旧無線跡地の開発状況について

旧無線跡地は、現在利活用されていない。ホテルの誘致、観涛所・潮干狩りの駐車場として整備すれば活性化につながると考えられる。開発状況を伺う。

（企画調整課、観光振興課回答）

旧無線跡地利用に関しましては、平成29年に「平中学区市民会議」と「平磯無線保存と観光の会」から大規模観光施設の建設・運営に係る要望をいただいております。要望は、国有財産である土地・建物を市が無償で譲り受け、新たに観光施設を整備し、「平中学区市民会議」と「市観光協会平磯地区」が管理を行うというものでした。

この要望を受け、財務省に照会したところ、譲渡価格についての優遇措置はないことが確認され、要望の実現には、用地の取得のほか施設の整備・経営・維持管理には莫大な財源とノウハウを要することが想定され、市が事業主体として実施することは考えていないことを回答しております。

今般、当該用地を管理している財務省に照会したところ、売却予定地ではあるものの、現段階では売却時期は定まっていないこと、そして、市に対する譲渡価格の優遇措置はないこと変わらないことを確認しております。

市としましては、当該用地は、市街化調整区域であるため、ホテルの誘致など大規模土地開発としての利活用につきましては、土地利用上の制約があることから積極的に行うことを考えておりません。

また、観涛所や潮干狩りのための駐車場としての利活用につきましては、主要地方道水

戸那珂湊線拡幅整備事業の進捗状況や自家用車等で訪れる観光客の駐車場需要を踏まえながら、引き続き海岸沿いにおける観光客用駐車場の整備の必要性について、検討して参りたいと考えております。

11 美乃浜学区明るい地域づくりの会 農地（田・畑）耕作放棄地の刈り取り対策について
最近、耕作放棄地が増えており、生活環境の悪化を憂慮している。補助金制度など、今後市はどのような対策を進めるのか。

（農政課回答）

耕作放棄地の対策としましては、「ひたちなか市耕作放棄地流動化事業」により、耕作放棄地を再生・耕作することに対し補助金を交付することで、耕作放棄地の解消を図っております。

近年、本市においても、農業者の高齢化等により、耕作放棄地の問題が顕著化しているなか、事業に賛同をいただける方も増えており、耕作放棄地対策として一定の成果をあげているものと考えております。

このほか、耕作放棄地の雑草等に関する苦情が発生した場合に関しましては、現況を確認したうえで、土地の所有者に対し通知等を行い、適正な管理をお願いしております。今後も引き続き、「ひたちなか市耕作放棄地流動化事業」を進め、農業者に対し案内・周知を行うことで、より多くの農業者に活用していただけるよう努めて参ります。

12 美乃浜学区明るい地域づくりの会 出産・子育てのしやすい環境整備について県と連携を

市・町・村が県と連携を取り、出生数増加に転じる対策を確立して欲しい。県においてプロジェクトチームを作り、人口増加に転じるよう努めてほしい。

（企画調整課回答）

本市の合計特殊出生率は、国や県よりは高い数値となっているものの、人口を維持するために必要とされる数値を下回っており、また、出生数は減少が続いております。これには、若年女性を中心に水戸市や東京圏への転出超過が続いていることなども影響していると考えております。

こうした状況を踏まえ、表面に現れにくい若年層のニーズを施策に反映するために、若年層を対象としたまちづくりに関する意識調査を実施してまいりました。令和元年度から実施しているマーケティング推進事業においても、本市への定住促進などを目的とした子育て世代のニーズ調査や、F1層と呼ばれる20歳から34歳までの女性のニーズ調査を実施し、若年層のニーズの把握に努めております。

それらの結果をもとに策定された、令和7年度までを計画期間とする第3次総合計画後

期基本計画では、総人口15万人を維持していくことを目標としており、子育て世代の人口流出や20歳・30歳代の女性の人口流出と出生数の減少を本市の特徴的な課題の一つとして捉え、重点プロジェクトとして「子育て世代に選ばれるまちづくり」や「F1層が住みやすいまちづくり」などを掲げ、分野横断的な政策を展開し職員一丸となって全庁的に取り組んでおります。また、全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、本市が持続的に発展し続けていくため、就職、結婚、出産、育児、教育といったライフステージに沿った総合的な対策を講じて出生率を高め、職・住・育が近接した持続可能なまちづくりを推進しているところです。

そのうち、国や県と連携を進めている取組の一例として、令和3年度より結婚に伴う若者の経済的負担を軽減するため、国の補助制度を活用し、新たに婚姻した若年世代のうち一定の所得層の夫婦を対象に、結婚に伴う新生活費用を支援する「結婚新生活支援事業」を実施しています。また、本市を含め、県央地域9市町村で構成された「いばらき連携中枢都市圏」内でイベント参加・体験型の婚活支援事業を予定しているほか、本市も運営経費の一部を負担している県のいばらき出会いサポートセンターでは、今年度よりAIを活用したマッチング支援を行うなど、県全体で若年層における結婚世帯の増加や定住促進への取組みを進めております。

ご提案いただいております県におけるプロジェクトチームにつきましては、現時点では編成の予定はございませんが、引き続き、県や近隣市町村と連携を図りながら、少子化対策について検討を進めてまいります。

13 平磯自治会、平磯清水町自治会、磯崎自治会、美乃浜学区明るい地域づくりの会 緊急避難道路の整備について

美乃浜学園から日立建機までの道路整備を要望する。東海原発もあり、地震、津波等が起きた時に地域住民・子供達の避難する道路がないので、早急に整備をお願いする。

(道路建設課回答)

ご質問の道路整備につきましては、地元協議会からも要望されている路線で、地域の利便性の向上や住民・子供たちの避難道路として必要とされていると認識しております。しかし、美乃浜学園から日立建機までの路線は、広範囲となることから、長期的な整備期間を要することが想定されます。

現在、市内全域で約150件の整備要望を受けており、どの地区も同様に早急な整備を希望されていることから、未舗装道路の舗装や排水不良による冠水被害の改善、通学路の安全確保など、生活道路の整備を進めている状況であります。

まずは、地元において路線の優先整備箇所の検討をして頂き、市と意見交換を行いながら、早期着手に向け取り組んでまいります。

【懇談内容】

1 平磯自治会 市役所本庁舎建て替えについて

市役所本庁舎が支所や他市町村と比べても、古く、駐車場も使いづらく感じる。建て替えた方が良いのではないか。

(市長回答)

ありがとうございます。今の市役所本庁舎は、すごく地盤が良いんですね。舌状地とって、古地図で見ても非常に地盤が良いところで、そういうこともあって、多少やっばりやられましたけど、東日本大震災を経ても残っているというところですよ。

私もいろんなお客さんが来る時に、趣のある建物でしょって言い方をしておりますので、そういうような、私としてはPRをしながらやっているわけでございます。

ただ一方で、昭和46年の竣工ということで、もうやっば52年3年たつということで、やはりいろいろ考えなきゃいけない時期には来てると思っています。市役所だけじゃなくて、今度、消防庁舎建て替えますけど、あれも昭和47年ぐらい。

あとは、市営プールだってあれも昭和40年の前半。図書館、いろんな公共施設ってものが、もう築30年40年以上経ってるということで、これからの状況を見ると、一つのを一つ建て替えるするというのが、なかなかできづらくなってくる。一つのを一つ建て替えるのももちろんあるし、二つのものを合わせて一つにしていくという考え方もあるし、または、適正な配置として、ある程度、こちらは残すけれどもこちらは我慢してねという話もしなきゃいけない。

要は、トータルで考えていかないと、いろんなこれからの財政状況、人口構造、そういうことに、整合がつかなくなってきたというような問題意識がございました。

そういうこともあって、この春に、公共施設を全部まずは机の上に乗せて、どういうふうにこれを考えるのかということをやろうということで、資産経営課という新しい課を作りました。美乃浜学園建設中に教育委員会に、技術職の人間を結構送り込んでいたんですが、あちらも一段落つきましたので、それを全部資産経営課に集めて、すべての公共施設を一旦見直してみようよと、こういうような話でこの春に新しい課を作らせていただきました。

大体2年ぐらいかけて、そういった施設をどういうふうにしていくのかを検討に今入ってもらっているところで、所管が総務部となりますので、この後にその資産経営課等公共施設のマネジメントをどういうようなかお考えで進めていくのかは、担当部長の方から少しご説明をさせていただこうと思います。

(総務部長回答)

総務部長の小倉と申します。今お話のありました資産経営課を担当しております。

公共施設が全体的に老朽化しているという問題意識の中で、まずは一旦すべての公共施設を棚卸しといたしますか、テーブルの上に上げて、どれぐらい老朽が進んでいるのか、それを維持していくのにはどれぐらいお金がかかるとか、或いは建て替えるにはどれぐらいお金がかかるとか、そういったことを全て明らかにして、施設保全計画というものを、まず2年ぐらいかけて作っていかうというふうに思っています。

その上で、建て替え、或いは、大規模な更新、維持補修ですかね、そういったものをいつやっていくか財政計画と合わせて考えていかうというようなことでやっております。

その一つに、今お話ありました、市の本庁舎も、入ってくるということです。これなかなか、職員の方からですね、庁舎を建て替えたいというようなことは、言い出しにくいものでして、今、もうそろそろ建て替えていいんじゃないかというようなお話をいただいて、心強く感じたところなんですけども、いずれにしても、50数年もたつ建物ですので、コンクリートの寿命一般的には60年程度と言われておりますので、いずれその更新の時期がやってくるという認識でおります。本庁舎の建てかえ更新についても、公共施設マネジメント計画の中で対応し、考えていきたいと思っております。

2 平磯清水町自治会 防草処置について（事前質問 No2 の確認）

事前質問 N02 の①～③について、道路管理課で迅速に対応いただき感謝する。また、沢メキの倒壊した空き家についても市の尽力により撤去された。

きよみず集会所南側斜面の防草についても対応をお願いしたい。

（市民生活部長回答）

お世話になっております。市民生活部長の白土でございます。どうぞよろしくお願いたします。根本会長から今、空き家の撤去のお話がありましたけども、市の方で、平成28年に空家等対策推進室というものを設置して、市内の空き家の抑制、それと対応にあたってきました。もう2、3年前になりますかね。沢メキの小屋が道路にせり出した形で放置されていた状況で、あくまでもその方個人にすれば財産ということもあって、行政側としては、所有者に対して根気強く交渉を重ねて参りました。やっとの思いで、所有者のご理解をいただきまして、所有者に撤去をいただいたという経緯がございます。これも担当者が、本当に遠方まで何度も足を運んでご理解をいただいた結果かなというふうに思っております。地元の方には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。

ご質問の斜面の草刈の件につきましては、個別に協議をさせていただきたいというような回答させていただきましたけども、この草刈自体、市の市民活動課と自治会の方と契約書を結んでいるというような形になっておりますので、後日、担当の方と改めて協議をさせていただければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

3 磯崎自治会 磯崎地区の公園整備について

以前から市政懇談会等で要望していた公園整備について、計画していただき感謝する。具体的なスケジュールはどうなるのか。

(都市整備部長回答)

都市整備部長の林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

磯崎地区の公園整備についてなんですが、今自治会の皆さんと、内容をどういうふうにするかっていうのを協議している段階だと担当課からは聞いております。

6月6日に協議をして、自治会からの要望をいただき、可能であるとお返事して、そのことを自治会の方が地元の人とお話するというふうに聞いております。

その結果で、いつぐらいから始まるかとか、スケジュールは決めたいと、そのように考えております。少なくとも年度内には完成させます。改めまして、まだ話し合いが多少残ってると思いますので、円滑に話し合いできるようにお願いしたいと思います。

4 一般参加者 平磯駅踏切の改良について

交通量が非常に多い踏切であり、遠原地区の児童生徒の通学路にもなっているが、踏切の幅が狭く、管理状態が悪い。状況確認し改善してほしい。

(企画部長回答)

企画部長森山でございます。よろしくお願いいたします。

ただいまのお話、踏切そしてその道路の拡幅も含めてのお話かと思っておりますので、まず私の方でその状況の方確認させていただくと、そして、建設部と、その部分については、調整を図って、いわゆる、道路側の問題であるのか、或いはその鉄道側の問題あるのかということですね。両面で確認の方をさせていただければと思います。

(建設部長回答)

建設部の大和です。よろしくお願いいたします。これから現場を確認しまして、海浜鉄道と、話し合いをしていきたいと思っております。

5 コミュニティ事務局 コミセン移転のプロセスについて

コミセンの旧平磯小学校への移転について、地域では話がまとまり、進めていきたいが、どのようなプロセスで進めていくのか教えていただきたい。

(市民生活部長回答)

ありがとうございます。市民生活部からお答えをさせていただきます。

平磯コミセンの皆様には、昨年からエアコンが壊れて、今日もこういう送風機、扇風機

で対応していただき、本当にご迷惑をおかけして、申し訳ございません。

以前から、このコミセンが今後もここで運営していくのか、それとも、旧平磯小学校に移転されるのかということで、市民活動課を通してご協議をさせていただいてきたという経緯がございます。

先ほど事務局長の方から、地域で話がまとまったというお話がありましたので、こういった方針が決まれば、市の内部で担当します資産経営課と円滑に移転ができるように、協議を進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

予算を確保していくというようなこともあると思いますので、来年の4月スタートはちょっと難しいかもしれないということだけ念頭に置いていただければと思います。

また、旧校舎と体育館側の新しい校舎と二つありますけども、使えるのは体育館側の建屋ということでご理解いただきたいと思います。

あと使用にあたって、用途変更の課題がありますので、一部改修が必要なケースが出てくるかと思っておりますので、その辺も協議の一つになってくるかなというふうに思っております。

6 コミュニティ会長 市の少子化対策について

少子化対策について、各市町村では、ある程度の人口規模がないと、市政運営はしにくいのだろうと思う。少子化対策は、国全体の課題であるが、県及び市町村も真剣に考えていかなければならないと考えるが、市長の見解を伺いたい。

(市長回答)

ありがとうございます。ひたちなか市は令和2年の国勢調査で5年前と比べて、何とか819人増ということで、現状維持はできているまちでございます。

ただですね、これからはやはり人口が減少していくという予想値がやっぱりありまして、5年後の令和7年8年ぐらいでは、このまま何もしなければ15万人を割っていくだろうというような統計が出されております。これに関して、我々が今打ち出せるのは、人口増というところまでは、残念ながら、なかなか難しいというふうに見ています。

何とかこの減り幅を鈍化させる、何とかこの15万人を少なくともこの5年間では維持をさせていきたいという目標の中で、今回、総合計画後期基本計画を出させていただきました。

まさにこれは、本当に国を挙げて、県を挙げて、市を挙げてというようなことでありますけれども、全国の自治体、市で言うと815の市区がありますが、その8割で、もう人口が減少しているというような状況でありますので、そういうところからするとまだ恵まれているけども、本当にこれから総崩れになってくるような状況でございます。

人口が増やせればいいんですけども、もう一つの課題としては急激に減るってということ

が、やっぱり問題かなというふうに思っています。急激に減るということは、急いでその仕組みを、変えなきゃいけない。要はその時間を稼ぐ時間がないというのが非常に問題になっていくわけです。

なので、今我々が取り得る、現実的な路線としては、急激さを何とか穏やかにさせようというところが、現実的な、今、ひたちなか市のやっていく方向性でございます。

その中で四つの重点プロジェクトを作らせていただきました。一つは、“子育て世代に選ばれるまちづくり”。それから、ひたちなか市は全体としても女性が少ない町なんですけれども、特に20歳から、34、5歳ぐらいまでの若い女性が少ないんです。ですので、そういった“若い女性たちに選んでもらえるようなまちづくり”、さらには一旦外に出ていってもまた戻ってきてもらえるような、“Uターン”、それから違う町で育っても、ひたちなか市なんかのタイミングで来てもらう“IターンとかJターンが促進できるようなまちづくり”。それと、今住んでる方、それからひたちなか市に関わっていただいている方が、このまち素敵だよ、誇りに思うよね。こういうふうに思っただけのような、“市民の誇り、シビックプライドを育めるまちづくり”、この四つのテーマを最重点テーマとして、総合計画の後期基本計画に位置付けたところです。

この子育て政策って、例えば、福祉部の子ども政策課あたりが中心でしょうという話があるかもしれませんが、これはもう本当に全庁的な話です。例えば、教育のあり方だってそうですし、例えば、都市整備部の方で公園を所管していますので、子供たちが利用しやすい、子育て世代が利用しやすい公園ってどういうことなのかな、など、本当に全庁的に、関わっていく問題だということもありますので、市としては、部署横断的に、今言った四つの課題というものを、取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

ですので、なかなか効果というところで言うとですね、とにかく鈍化をさせていくということでもありますので、なかなか華々しい話になりづらいですけども、ともかく、この5年間で15万を割らない。このために何ができるのかというのを、具体的な施策として挙げさせていただいております。

この市報の中にも子育てのしやすい取り組みとかいくつかありまして、そういったものを一つ一つ、やっていくということでもありますけれども、基本的な考え方は、若い子供たちがこのまちに来てもらう。その理由があって、出会いの場があって、結婚して家庭を作って、子供が生まれて子供が育って、子供が巣立っていくまで、切れ目なく、いろんな施策がひたちなか市にあるよね、という状況をちゃんと作っていくことが大切なのかなと思っています。

何か一つあれば、人が来る、何か一つあれば助かるということではなくて、切れ目なく、ちゃんとした施策がそろっているということが、すごく重要なのかなというふうに思っておりますので、どこにこう隙間があるんだろうということを考えながら、その隙間が埋められるような施策を、やっているというふうなところです。

あわせて、いいとか悪いとかではなくて、やはりこういう懇談の場も、すごく女性の方

が少ないなというのはどこでやっても、そういうふうに思っております。

女性に選ばれるまちづくりっていうふうに言った時に、やはり女性の視点、女性の意見というものを、やっぱり我々はもっとよく聞いていかなければいけないんだろうなというふうにも思ってます。そういった部分も含めて、自治会やコミュニティの方も、女性の方々に、いろんな意見を聞いていただくような、そんな仕掛けと一緒に考えていただければなあというふうに思っています。

意外と世代間のギャップとか男女間の、意識の齟齬というのはあると思います。前にもご披露させていただいたかもしれませんが、自治会の役員の方々が、子育て世代に、自治会入ってくださいって何度も何度も行くけれども、出てくれない、失礼だなというようなケース。だけど、奥様方は夕方忙しいんですね。子供の、ご飯を作ったりとか、お風呂をやったりとか、こんな忙しい時に来られても、なかなか出れないわよっていうような見方もできます。そういうような意識のずれであったりとか、あとは、いつも訪れてもらうんだけど、いきなりで、なかなか出られない。いるんだから出てくればいいじゃないですか。だって出れないわよ。だって私、すっぴんなんだもんとか、こういった感覚だってあると思うんです。

やっぱり世代、そして男女間のいろんなギャップっていうものを、もう一度ですね丁寧に見直して、どういったところが、引っ掛かるのかいうことを行政もしっかり把握しなきゃいけないし、地域の方もそういったことを、きめ細かにやっていただきながら、やはり女性に選んでいただけるまちづくりっていうのを、少し力をつけていきたいなと、こういうふうに思っています。

大変重いテーマですし、なかなか効果が現れるまで、どうなるかわからないということもありますけども、これはもう取り組まなければいけないテーマだという覚悟で、総合計画の方に載せさせていただきましたので、どうぞご理解とご協力をお願いしたいというふうに思っています。

7 平磯清水町自治会 コロナワクチン4回目接種について

接種情報について改めて教えていただきたい。

(福祉部長回答)

福祉部の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

コロナワクチンは4回目の接種が始まるということで、最初は6ヶ月置いたりとか、8ヶ月置いたりというお話だったんですけども、3回目から、5ヶ月を経過した60歳以上の方、それから、基礎疾患をもお持ちの方が、4回目の接種対象ということになります。

それで、3回目接種から5ヶ月経った方からですね、随時通知を送らせていただいております。接種の方法は、集団接種と個別の医療機関での接種、他に茨城県で行っており、大規模接種があります。

医療従事者の優先接種というお話は今回ありませんでした。それであくまでも、これは厚生労働省の専門部会で議論していたところなんですけれども、やはり重症化リスクが、高い高齢者の方と、あとは、その基礎疾患はある方、こちらが最優先で、接種していただきましょうという結果のようでございますどうぞよろしく願いいたします。

8 磯崎自治会 道路整備の要望について

道路整備の要望を以前から2つ伝えていたが、先日、担当課に行った際、2つの要望は認められないと言われた。そのようなことが言えるのか。

(建設部長回答)

道路整備の要望が2つではダメということは無いと思います。持ち帰って担当の方に状況確認のうえ、改めて説明します。

(市長補足)

私の方からも、特に要望が1本じゃなきゃいけない、2本じゃなきゃいけない、3本じゃなきゃいけないということは、特にありません。

ただですね、道路をつくる要望というのは、すごく多いんですよ。それで、どれもやっぱりある程度必要だよなっていうものを、今度は、どっちの方が優先するんだとか、あとは、先ほども言ったように財源的には、全体としても半分が自主財源、半分が依存財源なるわけで、かなり費用がかかるものを、一般財源だけで作るというのは、なかなか難しいわけであって、どのような補助がいたらできるんだとか、そういうような話もあるわけですよ。

そう考えたときに、いっぱい要望してもらってもいいと思いますけど、私が思うに、この要望とこの要望のどちらの方が地域としては優先されるんですかっていうような、そういう思いはあったのかもしれないと思います。要は、いっぱいあるわけですから、それをどんだんだんやれるほどの余裕はあるわけではないので、これとこれと同じ地域で出てきたときにはどちらの方が地域としては優先される課題だとお考えなんじゃないかっていう、そういうような問いかけは、あるかもしれないなと。

要は、我々の方でもそういうような話をするわけですよ、こっちとこっちとどっちの方を優先してやるべきなのかとか、どっちの方が、予算がつきやすいのかとか、そういうような話もありますので、特に要望としてはいっぱいあってもいいと思いますけど、なかなかそれをこなさきれないというような状況もあるので、そのような投げかけをしたと。私としては、そういうように理解をしておりますけど、特に駄目ということではないと思いますからね。

予算の査定も、すごく厳しくさせていただいているんですよ。本当に必要なものと必要なものが上がってきて、要は必要なものと、不必要なものが上がってくれば、不必要なも

のを切れればいいんですけども、今そういうことじゃなくて、必要なものと必要なものが上がってくる中で、どちらが優先されるのか、どちらの方が緊急度が高いのか、どちらの方が国からとか、県からの補助がつくのか。あともっと大きな予算になってくると、いろいろな大型事業をやっている中で、全部を並行してはできないから、やっぱり中期の財政計画の中でどこに当てはめられるんだっただけでできるのかとか、そういうのは全市的にあるわけでありまして、そういった部分で、かなり精査をしてあげてきて欲しいということは、各部課に、これは道路だけではなくて、伝えていることでもありますので、そういった部分がちょっと強く出すぎちゃったのかなというふうに思っておりますけれども、ちょっとそこに関しては先ほど建設部長も申し上げたように、各担当課の職員にはちょっとそれは行き過ぎな対応だよと。ただやっぱり課としてはしっかりと揉んで欲しいというようなことは、言っていかなければいけないのかなというふうに思っておりますので、ご理解ください。

8 コミュニティ会長 美乃浜学園の状況について

開校からこの1年間の児童・生徒たちの生活状況等について、一貫校としての良さがある等、教育長からお聞かせいただきたい。

(教育長回答)

教育長の野沢でございます。美乃浜学園につきましては、地元の皆様に、本当に子供たちを支えていただき、そして、登下校についても、取り込み守っていただき、何よりも、活動について、ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。

おかげさまで、何とか1年、子供たちが元気よく今過ごしている状況です。美乃浜学園は、他の学校と違って、6-3制じゃなくて、4-3-2制で行っております。

6年生までの小学校とそれから3年間の中学校じゃなくて、4-3-2でいくので、先生たちも、小学校の免許も持っていれば中学校の免許両方持っていないと、あそこにはいけませんよっていう形をとっております。ですので、小学校の子供たちが、中学校の先生から教わる、中学校の先生は、小学校の先生から教わる。そういうことによりまして、よくある1人の担任の先生がずっとこう見ていくというよりは、大勢の先生たちが、アドバイスをしながら見守りながらやっております。ですので、職員会議も、全体で小中一緒にある職員会議もあれば、4-3-2制の4年生までの、Aブロック、BブロックCブロックでやるような、学年会みたいなものもあります。

子供たちの様子なんですけれども、例えば中学生が、電車に乗ってるときとか、横断歩道を渡る時に、小学生の手をつないで、中学生が一年生の手をつないで、登校する様子や、また電車の中では、中学生が一年生を膝に乗っけてね、通勤通学する様子とか、それから、グラウンドでも一緒になって遊ぶ姿とか、そういうところが多々見られます。

子供たちにアンケートを取りました。昨年アンケートをとりまして、美乃浜学園になってどうかなってということで、昨年の12月にアンケートを子供たちにとったんですね。

そうしましたら、学校が楽しいと答えてくれた児童生徒が9割以上になっています。なかなかそんな学校はありません。特に中学生が9割以上楽しいっていうのは、めったにないですね。そういうスタートをしているところです。

体験も、小学校であった時、中学校であった時の様々な体験活動はなくさないようにしているところです。さらに、来年に向けて、今学校が取り組んでることは、子供たちに、起業家精神、アントレプレナーシップといいますが、自分たちで企業を、仕事を作ろうとか、何かプロジェクトを作ろうとか、そういう子供たちを育てて、この街全体をもっと、自分たちが社長になろうみたいな、そういう夢を持って、教育をしていきたいという校長先生の熱い思いがありまして、先日、富山の方の研修に若手の先生を派遣しまして、先生たちが勉強して、授業をどんなふうにしていったらいいか、子供たちの教育をどんなふうにしていったらいいかと研究をしているところです。

一般企業の人とか、それから有識者も呼びながら、先生たちも勉強していますし、それから先ほどのギガスクールも、トップレベルになろうと先生たちの意気込みで、いろんな方を呼びながら研修をしているところです。

相談の体制も整えるように、今頑張っておるところですので、皆様方の本当に地元の皆様方の温かい気持ちや、子供たちや先生たちに伝わっているなっていうのは、非常に感じております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

9 平磯清水町自治会 緊急通報システム、愛の定期便事業の様式について

両事業の運用で使用されている”利用承諾書”について、公文書の文言として承諾という言葉が適切なのかどうか見直してほしい。

(福祉部長回答)

福祉部の鈴木でございます。今のご質問ですけれども、ちょっと持ち帰らせていただいて、よく調べさせてください。それでご回答したいと思いますので、よろしく願いいたします。